



## AFTER 2,000YEARS REDISCOVER THE TRUTH

2,000 年を経て 真実を再発見

### WHY JESUS WILL RETURN

なぜイエスは戻って来るのか

### BEFORE THE WRATH

神の御怒りの前に

書士 ; 「私たちは、この世界で永遠に生きるいのちではありません。  
土から取り出され、かたち造られました。私たちは塵にすぎないので、やがて塵に帰ります。  
この肉体は必ず滅びます。しかし、霊は永遠に生きるのです。  
だから、あなたがたは永遠のものを求めるように勧めます。朽ち果てて無になるものではなく。

私があなたがたに書いているように、以前話したメシアの到来、私たちの主イエス・キリストが預言し、私たちが待ち望んでいる終わりの日の再臨が今や成就されます。  
主は、一度目は世を救うために来られましたが、今度は世を裁くために戻って来られます。

キリストにある私の兄弟姉妹たちへ。あなたがたが知っている大いなる苦難の時が近づいています。  
世の初めから見たこともなく、今後も二度と見ることはないような。  
しかし主は、地上にいる者すべてを覆い尽くす神の御怒りから、ご自分に従う者を逃がすために来られるのです。

世界的な戦争、飢餓、大地震と疫病の蔓延。溢れかえるおびただしい死。  
海は荒れ狂い、大地は焼け、月は血のように赤くなり、太陽は粗布のように真っ黒になる。

あなたがたに警告します。その恐ろしい日の前には、大きな背教が起こるでしょう。  
そして、この墮落した世に裁きの時が来る頃には、本物の信者はほとんどいないでしょう。  
再臨を示すしるしは、あらかじめ聖書の至るところで明らかにされているというのに。

神が宣言し、終わりの時まで封印されているいくつかの奥義は、メシアの再臨を目撃する世代の人たちに明らかにされるでしょう。  
私は懸念しています。救い主が戻って来る時、この世に残った信仰を見出すことができるでしょうか。

ナレーター ; 最後の預言が書き記されてから 2000 年が経ちました。  
現在まだ成就していない聖書預言において、その預言的な“しるし”がほぼすべて出揃う兆しは、これまでにないほど顕著になっています。その結果、最近では“時のしるし”に関する議論が増え、メシアがいつ再臨するかについて分裂が活発化しています。

どうであれ、古代の記録に預言された出来事は、本当に実現するようになるのです。  
ですから、主の再臨の時期を知ることは非常に重要です。

JAY ; 主の再臨の時期は本当にホットな話題で、特に宗教家やクリスチャンの間では何かと話題になっています。私たちは予測が大好きです。いつ主が戻って来るのか知りたいんですね。

**JAN** ; 対立、意見の相違、携挙のタイミングを巡る論争。  
特に過去 10 年の間で、羅針盤から外れてしまいました。

**JD** ; 今日の教会の人々は、初代教会の信者たちが “互いに愛し合う” と語ったようではなく、互いにいがみ合っています。

ナレーター ; LIFEWAY RESEARCH (ライフウェイ・リサーチ) などの最近の調査結果で、クリスチャンの間で分裂の溝が深まっていることが確認されました。

**SCOTT** ; 私たちは調査の中で質問しました。「携挙はいつ起こると思うか。」  
最も多いのは “患難前” に起こる。36% が信じています。  
しかし、最も多いということは、携挙について他の選択肢の人も ある程度いるということです。

ナレーター ; クリスチャンの 36% が患難前、4% は患難の中間、18% は患難後。  
更に、13% は他のタイミングか、もっと別の方法。4% はよく分からない。  
そして驚くべきことに、残り 25% は、もはや文字通りの携挙を全く信じていないクリスチャンたち。統計では、このグループが増えています。なぜこのようになるのでしょうか。

**LIZETTE** ; (スマホを使うと) 指先一つでたくさんの情報にアクセスできるので、人々は、自分のアイデアは自分で作りたいのです。彼らは終末論的な確信を、既存のどんな種類の解釈論的な下地も持たずに立てようとしていて、実際、他のどの立場とも合致しない例が多々あります。

ナレーター ; ですから、時代のしるしに関して議論が激化する中、一部のクリスチャンは、ロシアが戦争で荒廃したシリアを占領していること・イスラエルが国境に軍隊を派遣し、戦争の備えをしていること、これがキリスト再臨の最後のしるしだと信じています。

一方で、世界人口のほとんどを占める世俗的な人々は、イエスの再臨を気に留めません。  
まったく取り合わずに嘲笑している。根拠のない “聖書のナンセンス” だと。

**JAN** ; 時代のしるしに関する話は、人々を遠ざけさせます。最初は、私たちが話しているその話題から離れますが、最終的には、教会から、キリスト教から、信仰を求める心から遠くなります。  
それほど深刻です。

**SCOTT** ; キリストの教えを信じていない人は、イエスの再臨がどれほど重要なことか、少し理解に苦しむでしょう。クリスチャン自身、どう起こるのか説明すらできません。

ナレーター ; やはり、歴史的発見により聖書預言の妥当性が確認されたら、それに越したことはありません。しかし、なぜほとんどのクリスチャンは、メシアの再臨となると同じ考えを持ってないのでしょうか。それは多分、質問が正しくないためです。

**JD** ; 主イエスが “いつ” 戻って来るのかを巡って多くの争いがありますが、だれも立ち止まって、戻って来る “理由” を尋ねませんでした。

JAY ; 実際には、主が戻って来る“日付け”は、“理由”ほど重要ではありません。  
人々は「なぜイエスが戻って来るのか」「なぜこうなるのか」「なぜ世界が終わらなければならないのか」を問うことを忘れているのです。

JACK ; 焦点が間違っていると思うのです。なぜ携拳があるのか、どんな意味があるのかが核心です。

ナレーター ; つまり言いたいことは、終わりの時の出来事は単に古代からの迷信の続きなのか、それとも、キリストと共にいた人々は、時という砂に埋もれていたもっと大きな何かを理解していたのか。

---

ナレーター ; 私たちの物語を始める前にまず、イエスが単なるユダヤ人でなかったこと — 具体的にはガリラヤ人だったこと — を知る必要があります。  
それだけでなく、イエスの弟子たちも全員ガリラヤ人でした。

JACK ; 彼らはガリラヤ人というだけではなく、様々なタイプのガリラヤ人でした。  
漁師がいます。収税人がいます。イエスはこれらのガリラヤ人を集めたのです。  
ガリラヤ人が存在して、イエスの弟子たち・未来の使徒たちに、キリストがガリラヤ訛りで話したことには大きな理由があると思います。

ナレーター ; 古代イスラエルの各地域が同じ文化を共有しているにもかかわらず、ガリラヤ人は自分たちだけの慣習を発展させて来ました。なぜこれが重要なのでしょうか。  
イエスは神の霊的本質をより深く伝えるために、その文化を利用したのです。

JACK ; イエスは言葉や記号、類推やたとえ話を用いて、彼らが理解できるようにしました。

AMIR ; 山上の垂訓を見てください。イエスは彼らが理解できるように話しています。  
例えば、漁師の男には漁の話とか。聞き手が漁師でないなら、なぜそのたとえを使うのでしょうか。  
イエスが言ったことはすべて、イエスが生きて来た人生、イエスが属していた文化に基づいていたからです。

JD ; 私たちの時代では、中々理解できないのではないのでしょうか。  
イエスが語る時は、心から彼らの心に向かって語りました。  
イエスと弟子たちには深い接点があったのです。

JACK ; AD 1 世紀の信者は、イエスが言っていることを明確に理解していました。  
イエスは彼らにはっきりと啓示を与えたのです。

ナレーター ; ですから、ある日弟子たちが、神の未来の計画の成就について尋ねに来たのも不思議ではありません。イエスは伝えました。そのショッキングな内容を。

JAY ; イエスは世界がいつか終わりを迎えることを、彼らが理解できるように、実例を用いて説いていきます。このように…。

ナレーター；ということで、イエスの話の深さを十分理解するには、ガリラヤ人に明かしたことー終わりの日にイエスがなぜ再臨するのか、どのようにして再臨するのかーについて、ガリラヤ地方独特の文化的背景を踏まえ、彼らの目を通してメシアを見る必要があります。

ナレーター；そこから、意欲的な研究プロジェクトが始動しました。  
新しい洞察の断片から、古代ガリラヤ人の忘れられた生活スタイルを浮き彫りにしていったのです。

AMIR；福音の 2/3 は小さな帯状の土地、ガリラヤ湖の周囲での出来事だったと知っていますか。福音の 2/3 です。ほとんどのユダヤ人はガリラヤに住んでいなかったの、考えてみると、まったく理にかないません。しかし、福音の 2/3 はまさしくそこで起こったのです。だから、当時の人々の文化や生活や習慣を無視することはできません。

JAY；ガリラヤの人が大部分ですが、他にもたくさんの人々がパズルのピースを携えて、多くの発掘プロジェクトが動いています。それらは、発見して正しく理解するための巨大なプロジェクトで、多くの人たちが少しずつ、小さな断片を集めました。必ず何か一定のパターンがあるはずで

ナレーター；そうです。預言的なタイムテーブルを構成するパズルのピースがありました。聖書全体に織り込まれた、聖句をそのまま再現するような古代ガリラヤの数々の儀式。それらの儀式は何世代にも語り継がれて来たもの。前もって、終わりの日のキリストの再臨の理由と様子を告知させるものでした。この古代のすべての儀式の中に、奥義が隠されていたかもしれません。

それは、ガリラヤ固有の独特な結婚式に見出されたのです。  
1 年にわたる時系列を明らかにし、聖書の記述と完全に一致する慣習。  
キリストの再臨に繋がる預言。一連の慣習に則った結婚式。

AMIR；それは結婚式です。ガリラヤ式の結婚式。間違いありません。

JAY；なぜガリラヤ式の結婚式を用いるのでしょうか。イエスの弟子全員がガリラヤ人だからです。イエスは弟子たちに教える時、彼らが既に知っている対象を用いました。「○○ならば、天の御国はそのようなものです」と。  
ガリラヤ式の結婚式の場、あなたごとの結婚式がどんなものか知っていますよね」というように、いつもやっています。世の終わりの時も、そんな感じになりそうです。

JAN；携拳の類似性は信じ難いものがあります。とても見事なものです。冴えてますね。

ナレーター；では、古代ガリラヤの結婚式は、再臨について私たちが知っていると思っことをすべて変えるのでしょうか。  
私たちが今再発見していることの深さを本当に理解するには、キリスト時代の古代ガリラヤに戻り、預言的な結婚式の中に隠されていた一連の行為を辿る必要があります。  
さあ、ここからが物語の始まりです。

JAY；これがガリラヤ式です。これは、ガリラヤ人が知っていたことです。

---

<イスラエル北部、西暦 30 年>

ナレーター；カナの町へようこそ。

イスラエルは現在、ローマ帝国/ティベリウス・カエサル（シーザー）皇帝の支配下にあります。カエサルの残酷な権威の下で、多くのユダヤ人の生活は厳しいものとなっていました。しかしこの日、未来への希望、新しい時代への約束が生まれました。なぜならこの日は、若い花婿と花嫁の婚約が行われているからです。

**JD**；中東の文化では、結婚式の重要性を強調してもしすぎることはないと思います。現代でも 1 世紀当時そのままに重要です。だれにとっても、どの町でも、結婚式は最も重要なイベントだったのです。

ナレーター；実際、婚約が行われているという情報が町中に広まると、それを見ようと皆が町の正門に駆けつけました。

**JAY**；すべては門の前で行われました。それは本当に本当に重要な儀式で、ここで長老たちが式を執り行い、法律上の合意を承認します。門のそばで儀式を行えば、多くの人々が群がって来るでしょう。その人たちは家族でも友達でもありません。つまり現代のように、結婚式に客を招待することは、彼らにとっては重要でないのです。彼らが求めていたのは契約承認するための証人です。証人がいないと結婚の契約を結べません。

**JD**；結婚の契約について書き記された書面があって、花嫁はそれを受け入れることになります。

**JAY**；2 人は「この条文に同意しますか」と聞かれます。「私たちはそうします」と答えると、もう後戻りできません。「そこに書いてあるとは知りませんでした」とか「その項目は、私には不愉快なものです」などとは言えないのです。

ナレーター；両家の結婚の合意が公に読まれた後、贈り物を交換します。最も豪華なものが花嫁に贈られました。

実は一般的通念に反して、ガリラヤでは、花嫁の父に支払われた持参金は、花嫁を財産として“買った”代価ではありませんでした。周りの中東の文化とは異なるのです。むしろ、彼女の愛する人に何かあった時のために、彼女の面倒を見る保険のようなものでした。さて、次に行くことから、未来をつくる世代のための一連の出来事が始まります。

**JAY**；みんなが息を吞んで、その視点が一箇所にフォーカスする時が来ました。花婿にぶどう酒の壺が手渡されると、彼はそれを儀式用のカップに注ぎます。そして、花嫁になるであろう女性に献げます。それは“喜びの杯”と呼ばれました。花婿は両手で、敬意を込めて、恐る恐る花嫁に渡すのです。

**JD**；花婿からカップを渡されるその時、彼女は選択を迫られています。このプロポーズを、この男性との結婚を受け入れるか断るか…。

JAY ; カップが手渡されるその時、花嫁には結婚を断る権利が与えられています。  
カップを押し返すことによって、花婿を拒否することになるのです。

ナレーター ; 中東全域の習慣とは異なり、ガリラヤの花嫁は最終的な権限を持っていました  
花婿の申し出を受け入れるか否かは、彼女一人に委ねられていたのです。  
彼女がカップのぶどう酒を飲むことを喜んで受け入れなければ、婚約は成立しません。

そしてこの日、この婚約の式で、花嫁は受け入れました…。  
その後、花婿もカップを取ってぶどう酒を飲みます。これで、新しい契約は確固なものとなりました。  
すると花婿は、実に意味深いことを言うのです。

JAY ; 花婿はそこにいた皆に聞こえるように、公に言います。  
「あなたは今、私に献げられています。モーセの律法によって、私が父の家であなたと一緒にまた  
飲むまでは、私はこの杯から二度と飲みません。」

ナレーター ; この言葉がなぜそれほど意味深いのかを理解するには、後の時代に書かれた（新約）聖  
書の記事を見なければなりません。

最後の晩餐で、イエスはぶどう酒の杯を弟子たちに差し出し、彼らとの新しい契約の記念としました。  
そして、弟子たちが杯から飲んだ後、イエスは同じようなことを言ったのです。  
それは、ガリラヤ人なら自分自身の結婚式で聞き覚えがあること一。

JESUS ; 「わたしはあなたがたに言います。今から後、わたしの父の御国でああなたがたと新しく飲む  
その日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは決してありません。」

AMIR ; これがまさに、イエスが弟子たちに、その杯を与えた理由です。イエスは実際言いました。  
「これは、わたしの血による新しい契約です。わたしは自分の血を注ごうとしています。  
これは、わたしたちが再び一緒になるという約束です。このぶどう酒を飲んで記念するのです。」  
これは重要なことです。

ナレーター ; パンを割いて、ぶどう酒を回し飲みする。  
新しい共同体を形成し、新しい約束を成立させる。  
実際に執り行われた手続きを証しする上で、この行為は想像を絶する重要性があったのです。

JD ; 私のアラブ文化では、あなたは私と 1 つのパンを割いて食べ、同じカップから飲みます。  
これは、あなたの中にあるものが私の中にある、ということの意味するのです。  
それは コモン・ユニオン(連合体)。コミュニオン (キリストのからだ)。もはや 2 人ではなく 1 人。

イエスは最後の晩餐で言いました。「これは、あなたがたのために与えられる、裂かれたわたしのか  
らだです。」 イエスは花婿として、自分の花嫁に言っているのです。

また、イエスが弟子たちに、「これはわたしの血による新しい契約のための杯です」と言ったことは、  
古代の結婚式で、ガリラヤ人が花嫁料を支払う方法でした。

**JACK** ; ガリラヤ人である弟子たちには、それが何かは正確に分かりました。  
言うまでもなく、彼らには身近なものでしたから。

**JAY** ; 弟子たちには完全に明らかでした。  
ガリラヤ人の弟子たちが最後の晩餐で聞いたこと、イエスが語った内容はただ 1 つ。結婚です。

ナレーター ; 実のところ、それが理由だったのかもしれませんが。  
後に福音書の中で、弟子たちがイエスに質問したのは「終末の出来事はいつ起こるのか。」  
彼らは「なぜ起こるのか」とは尋ねませんでした。  
ガリラヤ人の弟子たちは、既に結び付いていたのです。具体的には、イエスの最初の奇跡として記録された、カナの町のガリラヤ人の結婚式で水をぶどう酒に変えた出来事が。

**JD** ; 最も魅力的なことは、イエスの最初の奇跡が結婚式で行われたことです。  
イエスは弟子たちに、自分がすぐに戻って来ることを説明していました。  
つまり、その結婚式は、同じ文化的ダイナミクスを持っていたのです。

ナレーター ; とところで、婚約式は、結論に至るまで 1 年間続く 想像を絶する長い旅の第一歩です。

**JAY** ; これで婚約式が終わり、家族は喜び、路上でパーティーをし、自分たちの家に戻ります。  
婚約は、まる 1 年にわたる準備期間のほんの始まりですが、結婚への道が開かれました。

ナレーター ; 法的には、花婿と花嫁は婚約の時点で、新しい契約の下で一つになり、一致して、今本当の働きが始まります。花婿は花嫁をひとり残さなければなりません。  
彼らは結婚式の祝宴の日まで、別々の場所に別れていなければならないのです。

今や花婿は、花嫁と一つになる日のために行うことについて、すべての責任を負っています。  
テーブルや椅子などの新しい家具と共に、父の家の上に新しい部屋を造るため、彼は数か月にわたって建材を集めます。また、ともしびやラグやお皿など、結婚式に必要な物について交渉します。  
結婚式の祝宴は、彼らの新しい家で行われるのです。

学者たちは今、この時代の結婚式における神学的意義、非常に重要な意義を見出しました。  
それは、キリストの初臨に関することです。  
イエスが十字架に掛かる前、イエスは弟子たちに、自分が去らなければならないことを告げました。

**JESUS** ; あなたがたのためにわたしは場所を用意しに行くのです。  
わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。  
わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。

**JACK** ; 「わたしはあなたがたのために場所を用意する。」  
特に 1 世紀のガリラヤ人の体験と文化について考える時、これは重要なカギとなります。  
「わたしは去って行きます。」ガリラヤ人なら完璧に分かったでしょう。  
つまり、イエスは用意するために去ろうとしているんです。新居ですよ！  
イエス自ら、花嫁のために場所を整えるのです。

そしてイエスは、弟子たち皆が知っていたことを言われました。

「わたしはまた来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。」

**AMIR** ; イエスは言葉によって約束を交わすまでは去りません。

「わたしはすぐに戻って来て、わたしがいる場所にあなたたちを連れて行く。」

やがて、私たちもそこに行くのです。

そして、これは非常に重要なことですが、イエスは、「あなたがたがいるところにわたしも」ではなく、「わたしがいるところにあなたがたも」と言っています。

**JD** ; イエスは花婿として自分の花嫁に語っています。弟子たちはそれが分かっていました。

なぜなら、それが当時の文化だったからです。

うまく言えませんが、人々は文化の深遠さを理解できていません。これはとても悲劇的です。

文化的背景を福音書から切り離すことはできません。

もしそんなことをしたら、福音書の全体的な意味が台無しになってしまいます。

ナレーター ; この世の慣習では、花婿は自分の父の家に花嫁を連れ帰りますが、イエスは天の世界のことを話していて、キリストの花嫁になることに同意し、新生した人々だけがそこに行くことができるのです。

**JACK** ; 携挙の教義を私たちに紹介したのはイエスです。

「わたしはあなたがたを迎えに来て引き上げ、家に連れて帰る。」

そうです。ひと言で言うと、もしあなたの神学にその出来事がないなら、あなたはイエスを正しく理解していません。

もしイエスが教会のために戻って来ないなら、私たちは皆、イエスを間違っただけで捉えているのです。

イエスは戻って来なければならないのです。それは必須です。それは絶対で、決定している出来事です。聖書に書いてあるとおりにイエスが戻って来るか来ないかによって、イエスが正しいか正しくないかが明らかになる。彼は戻って来なければならないのです。

**JAN** ; イエスが言ったのは、「わたしは去って行くが、それは、あなたがたのために場所を用意するためです。そしてまた来て、あなたがたをわたしのところに連れて行きます。」

いいですか？ 分かりますか？ これは携挙のように聞こえますよ。

ナレーター ; そして、キリスト自身が更に強調します。

これが起こる“時”に関して弟子たちに教えた言葉によると、その時 地上で生きている人は、死を味わうことはありません。

---

ナレーター ; 花婿は新居を造るために一旦離れましたが、花嫁と再び結び合わされるその時までにはしなければならないことがたくさんあります。

また、花婿の仕事もこれからです。彼女は花婿が再び迎えに来るまでに、用意を終えなければなりません。

JAY ; 当時の花嫁は結婚式のために、翌年まで時間を掛けて、ウエディングドレスやアクセサリーなどを揃えなければなりませんでした。花嫁は介添え人と一緒に、あらゆる種類の布を買いました。

ナレーター ; 彼女たちは布地を織ったりして、ウエディングドレスを作りました。都市から離れた田舎町では、すぐに使える材料を揃えて、手の込んだガウンを仕立てるのは容易じゃないでしょう。しばしば、必要な品物売る行商人がやって来るのを待ったことでしょう。この準備は困難で、コストが掛かる務めでした。1世紀当時では、完了するまでに数か月も掛かる大仕事だったのです。

それだけではありません。ウエディングドレスが完成した後も、花婿を待つ間 警戒し続けて、純潔を保たなければなりませんでした。花婿が来るまでどんなに時間が掛かったとしても。

JD ; 花婿が戻って来て、花嫁のために用意したその場所に連れて行く。花嫁はそのための準備が、常にできていなければなりません。ただぼ〜っと待つのではなく、花婿が来ることだけに専念するのです。

ナレーター ; ガリラヤでは、花婿の父親の家で行う結婚の祝宴の準備に、通常1年あまり掛かります。とても興味深いことに、最近の証拠から新しく分かった事が、神学コミュニティ全体に衝撃波を放ちました。この準備過程の全体を通して、花婿も花嫁も、結婚式が行われる日時を本当に知らなかったのです。

AMIR ; 結婚式が行われる正確な時は知らされていませんでした。

JD ; そうです。花嫁はその日にちも時間も知らなかったため、いつも準備して花婿を待っていました。

ナレーター ; 実際、町全体のだれも知りませんでした。だれも…。ある1人の人を除いては…。

JAY ; だれもこの結婚式の日にも時間も知りませんでした。息子も他の人たちもだれも。ただ花婿の父親だけ。

ナレーター ; 結婚式の日にもちと時間、それは花婿の父親だけが知っていました。婚約式で、息子に代わって誓約の条文を読んだ人物。息子のために花嫁料を支払った人。父親。父親だけが、いつ結婚式が行われ、いつ息子が花嫁を連れ戻せるのか、秘密を保っているのです。

JAY ; 他の全ての地域のアラブ人・ユダヤ人・他の民族の結婚式は予測可能でした。結婚式の準備には1年掛かりますが、その最後の決まった日に行われます。それが、ガリラヤの結婚式が他と異なる理由です。独特なのです。花婿は新居を造り終え、祝宴の準備も整えたら、父に言います。「お父さん、私は仕上げました。さあ、花嫁を！」父は言います。「時が来たら教えよう。」ガリラヤ人にとって、結婚式は予測できないものだったのです。

JACK ; 息子は父の家の上に造った新居に帰ります。中東では、特にガリラヤでは今でも、息子が父の家の上に家を増築します。

それまでの建物に1つ増築して、家を拡張する。父親は工事全体を監督していて、ある時、息子に告げます。「よし、完成だ！」そして許可を与えます。「息子よ、花嫁を連れて来なさい。」

**JD** ; 父親は “その時” の日にちと時間を決めておいて息子に告げます。

「OK。その日、その時が来た。おまえが用意して来た結婚式の部屋は完成したから。さあ聞きなさい。この日、この時間に花嫁を迎えに行きなさい。」

**JAY** ; ここで、少し聖書の説明に戻ります。

イエスが弟子たちに「だれも知らない」と話していたのは再臨の日時のことです。

弟子たちの関心は、イエスが王国を樹立するかどうかでした。イエスは答えています。

「いやいや、あなたがたは理解していない。わたしがいつ花嫁を迎えに戻るかは、だれも知らない。」  
花嫁を連れて来るために花婿を送ることができる唯一の人間は父親です。  
イエスを地上に戻す唯一のお方は彼の父なる神です。

ナレーター ; イエスの初臨の間、弟子たちが「終わりの日には、いつ再臨があるのですか」と尋ねた時、イエスはまた彼らに話しました。

**JESUS** ; その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。

**AMIR** ; 私は強く思っています。イエスご自身は、息子さえその日と時刻を知らないと話することによって、典型的なガリラヤの伝統を示したのだと。

イエスが弟子たちに終末時代のことを説明し、彼らを連れて行くために再び戻って来ると約束した時、「だれもその日と時間を知らない」と告げました。

ナレーター ; しかし、イエスご自身が「正確な日時は知らない」と言う再臨について、終わりの日に起こると預言された出来事に基づけば、それが近づく“季節”を、福音書から明確に知ることができるのです。その“季節”の中で、私たちの時代は終焉を迎えます。

**JAY** ; 結婚の日が近いので祝宴の準備を始めますが、それでも“この日”というのを知らないまま、花婿は多くの助けを取りまとめしていきます。出席者が50~100人いるからです。宴が続く間、客たちをもてなさなければなりません。一日だけではなく何日間も。

花婿は祝宴の準備を終えました。すべてを整え、新居を建て、父親を呼びます。

父親はすべてを調べます。これは真剣なものです。父親は遂に「よし。息子よ、準備は整った。」

息子が「花嫁が欲しいのです！」父親は「私が“時”を指示する。」

よく聞いてください。花婿は父親から肩を叩かれる瞬間を待っています。そして…。

「さあ、迎えに行きなさい！」彼はあまりに嬉しくて興奮状態。

イエスが天にいるまさに今、ワオ！何が起きているのか想像もできません。

主はご自分の花嫁を愛しています。

「わたしは迎えに戻るのが待ちきれない。わたしがいるところにあなたも共にいるのです」と。

ナレーター；花婿はもう準備を完了しましたが、父親が「花嫁を迎えに行きなさい」と言うその時を、まだ待たなければなりません。と同時に、花嫁も準備を整え待っていて、花婿と同様、最愛の人と永遠に結ばれたいと切望しています。

いよいよ今夜、町に陽が沈むと、待ち続けて来た時間が終わりを迎えます。宵闇が迫る…。

---

ナレーター；このことは私たちを、今日激しく議論されているトピックに導きます。本来のキリストのメッセージはガリラヤ人と共に去り、歴史の中に埋もれてしまいました。それで、イエスの「再臨の日や時間は知らない」という発言に関して激しい議論が沸き起こり、誤解が広がり深まっています。

**JACK**；教会はこれに苦しんでいます。つまり、日にちを特定したい人たちがいるのです。聖書は、イエスご自身と使徒たちの両方から教えています。だれもその日、その時を知らない。

**JD**；私の考えでは、これらのいわゆる“日付特定”論者は、聖書預言を不可逆的に傷つけました。

**AMIR**；私はとても悲しいです。それがいつ起こるかに執着し、日にちと時間まで特定し始めて、それが起こらなかった場合、何十万・何百万の失望した人々に、信仰から離れ去る良い機会を与えてしまうのです。再臨は間違いだと証明されたから。

ナレーター；その結果世界中で、聖書預言は、キリスト教から体系的に消去されています。

**JAN**；私は驚愕しています。自分の人生でこんなことを見るとは思いませんでした。聖書の最大のニュースが今や取り去られ、危うくなり、激しい批判と懐疑論の下にあります。牧師と話したら言われるでしょう。「なんですって?!」

私はキワモノ（検証不能な境界科学）と同一視されたくありません。日時の特定期はキワモノです。だれも日にちも時間も知りません。だれにもヒントは与えられていません。それは秘密なんです。父なる神だけが知っているんです。

**AMIR**；いいですか。この世界に住んでいて、突然だれかがあなたに「あなたは物理的に、まさに今この世界から連れ出されようとしている」と言うんですよ。その日が分かるなんて、(クジで) 当たりを引くようなものです。イエスご自身が「だれも日時を知らない」と言っているのに、なぜ知る必要があるのですか。ハッキリとお伝えします。私たちは再臨が起こる日時を突き止める必要はありません。ただ、その日のために準備をするのです。

---

ナレーター；それに加えて、聖書預言の誤解が、より多くの“熱烈教会人”のクリスチャンの間で広がっています。年を追うごとに、もはや誰も、これらのいわゆるキワモノ的な話題を聞きたくないのです。ほとんどの教会が、この傾向をはっきりと認識しています。

**JAN**；牧師に尋ねると異口同音に答えます。「あのね、世が終わりつつあるなら、私の教会は成長しないことになる。」イエスが再臨するという事実さえ「起こらない。」

**JD** ; 牧師たち自身が聖書預言について無知のままだということ、本当にこれが一番の理由です。彼らも怖いのです。

もし聖書預言を教え始めたら、あまりも物議を醸すのではないかと恐れているのです。彼らは聖書を教えてはいますが、聖書預言だけ初めから除外して、どうやって神の御教えのすべてを教えることができるのでしょうか。

**AMIR** ; クリスマスは常に、世に受け入れられることを望んでいます。

人々から好かれるために世俗的な見解を受け入れ、世に合わせることに余念がなく、すべてをシュガーコート（オブラートに包む）します。もし未信者が来会した際、「携拳」と書いたカードを見せたら、その人は「変な所に来た！」と思って逃げ出すでしょうから。

牧師たちは、牧師というより、人々にやる気を起こさせる“語り手”になっていますよ。

---

ナレーター ; 聖書預言を排除する傾向の増加は、単に根拠のない認識ではなく、実際に起きていることが証明されており、しかも思っているよりもはるかに悪くなっています。

**SCOTT** ; 具体的な数字で説明しましょう。数年前の研究です。

牧師たちから 450 本のメッセージを収集し、それをサンプルにしてメッセージの内容を調べました。聖書の預言書の御言葉を説いていたのは、450 本のうちわずか 2% でした。

ナレーター ; ここに問題の理由があります。

預言に関する記述は、聖書全体のほぼ 1/3 (33%) を構成しています。

調査した日、メッセージの中でわずか 2% だけが預言に関するものでした。

これは、教会が意図的にこのトピックを避けていると言えるでしょう。

**AMIR** ; 聖書から 30% を切り取ってそれを無視すると、残るのは 70%。

これは不完全だと分かります。聖書を分解することはできません。

欲しいものだけ選ぶことはできないのです。

**JD** ; 今日のクリスマスたちが主の再臨を否定するのは、聖書的無知だからです。

点と点を繋げば全体像が明らかになるのです。これを言うのは悲しいのですが、私は言います。

講壇にいる牧師に責任がある。ここに問題があります。

**JAN** ; クリスマスたちは言いますよ。「いい？ 私は長生きしたいの。子供たちの成長を見たいし、孫の顔も見たい。世の終わりのことなんて考えたくもない！」

それが私を突き動かしたのだと思います。

王が来られ、私たちのために栄光に満ちた家が用意されていて永遠にそこに住む、という事実が完全に拒否されて落ち込んでしまったのでした。

---

ナレーター ; さて、もっと深刻な問題は、聖書から預言を排除できないし、キリストの再臨も除外できないということです。

**JD** ; 携拳はキリスト教において根幹をなす信条である、と私は堅く信じています。

終末論・聖書預言は最も重要です。聖書のほぼ 1/3 は預言なのです。

だから、預言的な御言葉を省いたままで、神の教えのすべてを受け取ることはできません。それは福音なのです。“イエスが来られて十字架に掛けられ、埋葬され、三日目に復活された。そして、いつかまた戻って来られる！”これが福音です。イエス・キリストの再臨を福音から切り取るなら、あなたは福音を“無き者”にしてしまいます。

ナレーター；しかし、事態は更に悪くなっています。教会や教育機関が聖書預言を体系的に消し去った結果、世界は、そもそも預言がなぜ存在するのかということをおぼえてしまいました。預言は、神は神であられることを世界に証明するのです。つまり要点は、聖書から預言を取り除くなら、聖書は神の源から来たものだ、という証明を削除してしまうということです。

JAY；それは、聖書の（\*預言を除外した）残っている聖典が、世界の宗教の教えと同等のものとなるということです。すべてが等しいと認識され、他の、いわゆる“聖なる書物”と比べて、聖書には際立った卓越性も、神聖さもないとみなされるでしょう。

JD；今の若者たちが教会とは関わりたくないと思うのは、実にこのためです。今日、多くの人々が信じない最大の理由は証拠がないからです。イエスの言葉は面白いですよ。「わたしは、何が起こるかを前もってあなたがたに告げました。だからそれが起こる時、あなたがたはわたしを信じるでしょう。」証拠はたくさんあるんです。問題は、多くの人々が証拠を見ないので信じない。証拠はあるんですよ。

ナレーター；そして、これがもたらすことは1つだけ。キリストの再臨を信じることと、更には、聖書そのものが保ってきた正当性の失墜。これは既に始まっている恐るべき傾向です。

JD；私の両親は中東からアメリカに移住しました。今のアメリカは、移住して来た1963年のアメリカとは違います。この国は劇的に変化しました。かつては、主の再臨について知識があったのです。今話したことで思い出すのはペテロが言ったこと。「やがて、人々が耳にすればあざけて嘲笑する、そんな日がやって来る。」少しでも「主の再臨が…」と言うと、「やめろ！再臨の約束なんてどこにある？」人々は何代にも何代にもわたって「主はまだ来ないさ！」と言って来ました。

JAN；すべて終末の背教の一部だと思います。私たちが話していることはすべて預言されていて、実際起こっています。次第に増大しているこれらのことを聖書は“背教”と言い、「真実から離れ去り、大きな背教が起こる」と言っているのです。

ナレーター；これは単に、世代間ギャップによる社会変化という認識だけではなく、ライフウエイ・リサーチ、バーナグループ、ビュー・リサーチなど複数の調査機関による調査からも分かっています。

SCOTT；私たちの調査では、福音主義的な教え、つまり、“イエス・キリストが自分の罪を取り除く唯一の道であり、イエス・キリストだけが永遠のいのちを与える”と信じる人は、わずか15%しかいないことが分かりました。

ここから共有すべきことは、アメリカ人の 10 人中 8 人以上は、福音書の中心的な教えである“聖書を第一に考え、キリストだけを信じる”ということに躊躇したり、完全に否定するということです。

ナレーター；様々な研究機関の詳しい研究によると、アメリカ人の 80%以上は、もはや聖書が完全な神の御言葉であるとは信じていません。

聖書自体の正当性の証拠が組織的に消去されつつあることを考えるならば、この傾向は驚くことではありません。すべての宗教が、年を追うごとに平等で実体のないものとして捉えられるようになり、“世界的なヒューマニズムの潮流”が爆発的に高まっています。

SCOTT；アメリカ人の 4 人に 1 人が「自分はどの宗教団体にも属していない」と回答しています。同じ調査では、生きている間に世界が終わると思うかを尋ねていますが、18%、ほぼ 5 人に 1 人のアメリカ人は実際にそれが起こると感じています。

ナレーター；キリストの再臨は、私たちが知っているとおり、世界の終わりの代名詞です。ほとんどの人が再臨を信じていないという傾向を見始めていることは、それが近づいている兆候かもしれません。驚くべきことに、聖書にはそれが起こることも預言されていました。そして、実際に起こっています。

JD；「わたしは、あなたには少しばかりの力があることを知っている。」これは、イエス・キリストが戻って来る前に、まさに踏ん張っている、終末時代の教会を描写しています。今日、信者の残りの者（レムナント）がいて、その希望にしがみついているのです。しかしその数は少なく、また、日毎に減少して行っています。

JACK；イエスは「再臨の時、地上に信仰があるだろうか」と言いました。終わりの日には、信徒はほとんどいないでしょう。アメリカで起きていることは、西洋化された、言わば“人が作ったキリスト教”の失敗だと思います。信仰に失敗し、文化との関わり方にも失敗し、準備ができていなくて、ただ御父の仕事に忙殺され、伝道に失敗している。なぜ？ 切迫感がないから。私たちはそんな時代に生きているのです。

「聖書もイエスのことも信じている」と言うだけの人々に、私は問います。  
「あなたはどんな聖書を読んでいて、どのイエスのことを言っているのですか？」

AMIR；神の御言葉から完全に切り離されているなら、携拳はクレイジーなことに聞こえます。ところが、神を拒否する人々が、エイリアンは信じるのですよ。霊能者を信用し、死者の霊と会話できるとか、多くの奇妙なことを信じているのです。それなのに、聖書の話を始めるとすぐに、「それはお伽話だ！」と言うでしょう。興味深いことに、聖書のそれぞれ奇跡的な物語には物理的な証拠があるのです。

JACK；繰り返しますが、聖書は、終わりの日に「イエスの再臨の約束？ 初めから何も変わっていないじゃないか！」と嘲笑する人々の姿を描き、「終わりの日には、イエスの再臨を嘲る者と軽んじる者がいる」と語っています。

JD；ただの悪化ではなく、指数関数的に（ものすごい勢いで）悪化します。

ナレーター；これらの傾向を考慮すると、それはまさに聖書が権威を持って警告した理由であり、驚くことはありません。終わりの日、信じず備えていないこの世界に、イエスは夜の盗人のように戻って来ます。

JAY；イエスは弟子たちに再臨に備えるよう警告し、「わたしは夜の盗人のように来る」と言いました。

AMIR；「わたしの兄弟たち、時と季節に関してわたしが話すことは、あなたたちには必要ありません。あなたたちは完全に知っているから。主の日は夜の盗人のように、この世に本当に来ます。でも、あなたたちには夜の盗人にはなりません。」

準備ができていたら整っているのです。私たちはただビククリするだけです。

しかし、もし準備が出来ていないなら苦しみます。

JACK；気づかない人、イエスが言うところの“人生の思い煩い”で泥沼にはまり、身動きが取れず、意気消沈している人々に、主は夜の盗人として来ます。

---

ナレーター；イエスは夜に来る盗人です。終わりの日に備えていない人には自明のことです。

長い間、神学者たちはその意味を額面通りに捉えていました。

しかし見て来たとおりの、古代のガリラヤでは、花婿の父親だけが結婚式の日にと時間を知っていたのです。そして今、研究者が発見したのは、その時間はどうやら真夜中だったということ。

JD；そうですね。“だれも、その日その時を知らない”という慣用表現…、イエスが「その日、夜の盗人として」という表現を使った時、弟子たちはイエスが言ったことを完全に理解し、文字通り、夜の盗人になると分かっていました。夜にそれが起こる。

夜になって、ともしびに油を入れなければならなかった理由は…、つまり、灯りをとすのは、本物の泥棒じゃないからですよ！ 彼らは準備していました。服を着て備えていたんです。

ナレーター；これは、ガリラヤ式結婚式の、究極の“大どんでん返し”です。

ガリラヤで何年も暮らしたイエスは、花婿が花嫁のために真夜中に来ることをよく知っていました。

JAY；花嫁は純潔でした。彼女はウエディングドレスを着て寝ています。

介添えの娘たちは白い亜麻布の服を着て、花婿が来た時、花嫁が出て行くのを手伝う準備が出来ていました。花嫁は花婿と会う準備が出来ていたので、花婿は花嫁が知らない時間に、予期せずやって来ます。

AMIR；真夜中にそれが起こるのには理由があります。

みんなが準備出来ている時に起こるとは限らない、ということをもさにはっきりと示すためです。これは意図的です。だからこそ、結婚式に積極的な人たちだけが、ワクワクして準備をするのです。

しかし、当事者以外は完全に眠っている。文字通り眠っている。まったく眠ってしまっている。

それが、「他の人のように眠るな」と命じる理由です。これが理由の一つだと思います。

クリスチャンは常に、イエスが弟子たちに与えたいしるしを探すべきです。それらを見ていますか？

ナレーター；イエスは、備えのない世界に向かって夜の盗人として戻って来ますが、終わりの時代にイエスの帰りを待っている人々に、更に警告しました。  
それは、準備万端だと思っている人でさえ暗闇に残される羽目になるという、たとえを用いた警告です。

イエスはその夜に備えていた“10人の娘たち”…、ともしびの油を燃やして灯し、いつ来るかも知れない花婿の到着を待っている娘たちの話をしました。

**JACK**；それは、油を入れた10個のともしびのたとえ話です。  
そのともしびを10人がそれぞれ持っていたけど、全員が上手くやれたわけじゃない。  
ええ、ええ、みんなやったけど、でも、できなかった。

聖書は語っています。「夜中にラッパが吹かれた時、彼女たちはみな飛び起きて、それぞれともしびを整えた。しかし、灯し続けるための油を十分に持っていたのは5人だけだった。」  
これが鍵です。聖書では、油は象徴的に、内住する聖霊を意味します。

あなたは信者かもしれません…。よく聞いてください。  
イエスは、ともしびを整えられなかった5人を“一時的な信者”だと言いました。  
信じて **ボーン・アゲイン**（新生）したのではないと。  
あなたが信じていることは、キリストにある信仰となっていますか？

これらの娘たちは信仰深く、準備をして、ともしびと油を持って待っていました。  
しかし、十分な油を持った人だけが最終地点に到達したのです。

ナレーター；今日、このことに関する適用は非常に明確です。  
最近判明した社会的傾向では、多くの人々が、終末時代の教会に関するイエスご自身の預言的警告を信じています。その警告は、既に現実のものとなっているのです。

**JAN**；残りの者（レムナント）は見張り続けていると思いますよ。  
彼らはキリスト教徒のほんの一部で、1%~10%とされています。  
彼らは見張っています。待っています。ニュース記事の見出しを、時事情勢を注視しています。  
しかし、今日の教会の中で、その数はますます減少して行くでしょう。

---

ナレーター；キリストの時代に戻ります。カナでは太陽が沈みました。  
イエスが警告したように、まさに今夜、終わりの日、世界中が眠りに落ちるでしょう。  
多くのガラリヤ人も。しかし今夜、遂に花婿の時が一。

**JAY**；花婿はその日が来ようとしているのを知っていました。  
しかし彼は、おそらく小さな部屋で、床いっぱいの付き人たちと一緒に眠っています。  
…そして、父親は決定を下しました。「今がその時だ！」

ナレーター；父親は、今が花嫁を息子の元に取り戻す時だと決断しました。  
彼は息子を起こして、「花嫁を迎えに行きなさい！」

JAY ; 花婿は跳び上がり、ショーファー（雄羊の角笛・ラッパ）をつかみ、吹き鳴らして、村全体に響き渡らせます。村だけではなく花嫁とその家族を目覚めさせるために。素晴らしいシーンです。

JACK ; それは朝のとても早い時間、むしろ真夜中という意外な時間でした。

花嫁はどこにいても、その響きを聞くでしょう。「見よ、花婿が来る！」

花嫁は起き上がって、ともしびを整えます。準備してきたことを、今実践するのです。

---

ナレーター ; 待機の期間が終わりました。遂に、花婿が花嫁と結ばれるために進んでいきます。村の通りを歩いて行く間、花嫁だけでなく祝宴の招待客も目覚めさせるために、ラッパは大きく吹き鳴らされました。素早く起きて、備えられた人たちが行列に参加します。

JAY ; 花婿と付き人たちは家を出て村の通りを回りながら、いよいよ花嫁の家近づきました。

花嫁が見えて来ると…なんと衝撃的で美しいシーンでしょう！

真夜中、そこには花嫁と、白い亜麻布のローブをまとった介添えの娘たちが並んでいます。

中央には、非常に美しい花嫁衣装で着飾った花嫁が立っている…。

ナレーター ; 1年間の準備と待機の後、遂に再び一緒になります。永遠に一体のものとして。

JAY ; 花婿率いる一団は、花嫁と家族、そこに立っているすべての人々、介添えの娘たちに大急ぎで近寄りました。そこへ輿 [こし：しよいこのような物] を担ぐ2人の男たちが来て、花嫁の足元の地面に輿を下ろしました。花嫁は恐る恐る注意深く乗り込んで、身を低くします。

ナレーター ; 花嫁は花婿の後に付き従いませんでした。

花婿の父の家に戻って行くのですが、空中に持ち上げられるのです。

実際、古代のガリラヤ人はこの場面で言いました。「花嫁は父の家に飛んで行く。」

JACK ; 花嫁は地面から持ち上げられ、そして下ろされました。

花婿と一緒に、準備されたところに送り届けられたのです。

それは、神の恵みのすべてを大いに知らしめるものです。花嫁の努力ではありません。

花嫁は、花婿を愛するゆえに備えていただけでした。

花嫁は高く上げられ、連れ去られました。花婿と一緒に。それはすべて神の恵みです。

最初からずっと、今もそして最後まで、すべてが神の恵みなのです。

ナレーター ; この文化的慣習と聖書の記述には、鳥肌が立つような類似点がたくさんあります。それは、聖書を買っている、神学が“携拳/Rapture”という語を使っている出来事に関することで、信者が瞬間的に引き上げられ、終わりの日に戻って来たメシアと空中で会うのです。

JAY ; その時、花嫁は地上から持ち上げられ、宙に浮いたまま運ばれる。

まるで、花嫁を父親の家まで飛ばすかのように。このことは、あることを想起させます。

これは、イエスが花嫁を地上から集め、取り去り、空中で集合することではありませんか？

JD ; 絶対そうだと思います。まったく疑いの余地はありません。まったく。

みことばで与えられた手がかりのすべてが、これが携挙であることを具体的に告げているのです。

**AMIR** ;これが、イエスが私たちを連れ去りに来る理由です。

もし花嫁と結婚しないのなら、なぜ花婿は来て、花嫁を連れて行くのですか？

この瞬間から、私たちはいつも主と一緒にいるのです。まさに夫と妻が一つであるように。

もう引き離されません。これが、私が携挙を信じる理由です。本当に驚くばかりの出来事です。

---

ナレーター ;花嫁が父の家に飛んだ後、待ちに待った結末が始まります。

結婚の祝宴が始まる時、備えていて、夜の闇の中で呼び声を聞いた人たちは皆出席しました。

イエスは弟子たちに明らかにしています。「これも、終わりの日に起こる光景です。」

戻って来たメシアと一緒にいるために引き上げられた人々は、聖書が言う“子羊の婚宴”に参加します。

子羊とは、十字架の上で釘づけられた いけにえの子羊、キリストご自身。

事実、使徒ヨハネは黙示録で、信者とキリストが一つにされるこの祝宴について言及していて、終わりの日の人々に向かって、こう言っています。

**書士** ;私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。子羊の婚礼の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから。

**JAY** ;ガリラヤの結婚式の父の家は、天国の完璧な光景です。

結婚した夫婦として花嫁と花婿は永遠に一つとなり、花婿の父の家に住むのです。

**JD** ;それがなぜそんなに重要なのかというと、これが私たちの目的地だからです。

私たちはイエス・キリストの花嫁として選ばれ、永遠に共に住むのです。

この地上のすべては来たるべきものの前影であり写しであって、興味深いことに、イエスは最後の晩餐で2回言いました。

「これが神の国で成就する時、あなたがたと一緒に行くことをわたしは切に願っています。」

---

**JAY** ;さて、ここで問われるべきことがあります。

なぜ神はすべてを創造したのか。なぜ世が墮落するのを許したのか。

なぜ神は御子を送ったのか。なぜ御子は、死ななければならなかったのか。

なぜ御子は、死からよみがえらなければならなかったのか。

そして、なぜ御子は天に昇ったのか。なぜ御子は戻って来るのか。

神が御子に花嫁を連れて来る。歴史上、永遠においても、これは最も重要な出来事でしょう。

ナレーター ;このためイエスは、約束を受け入れようとするすべての花嫁たちのために「再び戻って来る」と約束しました。その日には、ただ一つに結ばれるだけでなく、終わりの日に世界に下される“御怒り”から救う、という約束です。

イエスは大勢に警告しています。しかし、人々は聞き入れません。

祝宴に参加するチャンスを提示しているのに、イエスとの“永遠の別れ”を選ぶ多くの人たち。

そのまま取り残される人たち (レフト・ビハインド)。

JAY ; 花婿たちが父の家に着くと、たくさんの人で敷地内は すし詰め状態。  
さあ今、祝宴は整い、始める準備ができました。その時です！人々の後ろの扉が閉じられた！  
だれも出て行かず、だれも入って来れません。七昼夜。

ナレーター ; 古代のガリラヤでは、閉め出されたら、もうだれも中に入れなかったのです。

JACK ; 信者も未信者も、携拳について知っている人はたくさんいます。

「ええ。携拳は聞いたことがあります。」「そうです。イエスは戻って来ることになっています。」  
聞いたことがある…。いいですか。聞いただけではダメ。

私たちは1世紀のガリラヤの結婚式によって知っているのです。

だから準備をすべきです。十分な油を備えるべきです。中に入るべきです。結婚式にいるべきです。  
扉が閉められて…。一度閉まったら、閉まったままなのですよ。外にいた人たちはそのまま外に…。

今 あなたは、信じられない恐ろしい現実について考えるでしょう。

キリストが「戻って来る」と告げたのを知りながら、閉め出されるのですか？取り残されるのですか？  
イエスはたとえ話で警告していました。警告していたんです。

ナレーター ; 古代のガリラヤの結婚式で見たように、聖書預言は警告しています。

メシアの再臨 (ここでは空中再臨、すなわち“携拳”)から取り残された人々は、“神の御怒り”に遭  
う定めなのです。それは、拒絶する声の上に激しく下るでしょう。

JACK ; そして、義人は地上から取り去られます。主がイザヤ書 26 章で言われたとおりです。

「わたしが地に住むすべての者の上に裁きを下している間、わたしはあなたがたをあなたがたの部  
屋に入れ、後ろの戸を閉めておく。」

JAN ; “教会は神の御怒りに遭わない” という事実はとても重要です。教会は人間の怒りを免れる  
ことはできません。世界の至る所で恐ろしい迫害が起こっているのを見ています。しかし、聖書の御  
言葉は言います。「神は私たちが救われる。来ようとしている神の御怒りから。」

JAY ; 全体像を見ると、ガリラヤ人はまさに、キリストの再臨の理由と目的を理解するための鍵で  
す。イエスは彼らが非常に馴染んでいる実例—花婿に愛されている花嫁。そして花婿との婚約—  
を用いました。何度も何度も。

「花婿は花嫁と契約を結びます。それから彼は立ち去り、最終的に、彼らが知らない時、花婿は自  
分がいるところに花嫁を連れて行くために戻って来るのです。」

これは驚くべきことであり、彼らはそれが意味することすべてを理解したでしょう。

弟子たちはガリラヤ人ですから。イエスはそのように、彼らに再臨の話をしました。

---

SCOTT ; クリスマンだと公言する人はたくさんいます。しかし、聖書を本当に詳しく掘り下げて  
いません。神はご自身を明らかにされました。つまり、それが聖書です。

ナレーター ; キリストの再臨を待ち望んでいる人の数は年を追うごとに減少し、メシアはなぜ  
戻って来るのかについて話すことは、もはや大して重要なことではありません。

